

## 活動報告

神奈川県立横浜青陵総合高等学校教諭

平成 16 年度 1 次隊 (ジャマイカ)

金森 万美江

皆さん、こんにちは。神奈川県立横浜青陵総合高等学校の英語の教科の教員をしております金森です。昨年の 3 月にジャマイカから帰国して 1 年がたったところです。先ほどから後ろの方で聞かせていただいたときにちょうど訓練時代をですね、思い出してみんなのこう、皆さんのフレッシュで生き生きとした背中を見ていてですね、とても懐かしく感じました。それでは私のジャマイカの報告をさせていただきます。それではスライドの方を映していただけますでしょうか。私は行く前も行った後もすごく職場に応援してもらう形で送り出していただいてそして迎えていただいてとても幸いに思っています。行く決意をしたのは皆様も 4 月の終わりぐらいに現職参加制度のお知らせが職員室で朝の打ち合わせで行われる時によし私は行こうと決意したと思うんですけども、私の行きたいという漠然とした夢はですね、ずーっと何年も胸に抱えていたんですけども、さていざ行くとなると今は担任 2 年生の途中だとか、やっぱりそういうのは今はこれを仕事に抱えてるしだとかですね、そういう自分の中で事実でもあるんですけど言い訳をしながらですねなかなか飛び込めない毎年読んでですね、そういうお知らせも朝の打ち合わせであってそしてそれをああそんなことも私やりたかったんだなと思いながらもその打ち合わせで生徒の何何委員会でこれを伝達しなきゃとか、そちらの方でもってついついこちらの方は横に置いておきがちで目を向けないようにしていたような時期もあったんですけども、3 年の担任をしまして生徒がワークホリデイにオーストラリアに行くという生徒が出たりだとか、サッカー留学をするという生徒が出てきて、私は頑張ってきてねというふうに送り出すわけなんですけれど、ああこれは私が二の足を踏んでいる生徒たちがそれを飛び越えて勇気を出して外に飛び立とうとしている時に私は何をぐずぐずしているんだろうということを思いまして。ああ私はやろうと思っていてこれから生徒に夢を伝えていく立場ならばこれは自分が勇気を持って飛び込んでみなくてはいけないというふうに思ったんですね、でそういうふうにごく決意を固めた時、その 1 週間後ぐらいにその先生の今年の現職参加また希望される方というふうなことがありまして、ああでもまだ決意は固まり始めてきたけれどまだきちんと熟していないなと思っていたんですが、校長先生に締め切り今日までだよと言われた締め切りの最後の日ですね、相談して私の場合は、英語ですので教科がなかなか要請もないんですね、で校長先生がゴールデンウィークにわざわざ学校に来てくださりまして私と一緒に考えてくださりまして職種を考えるとところから相談に乗っていただいて、そしてもう今やその校長先生に感謝しています。

さてそしてまああの、回りの協力もいざ決心した後皆さんそうだと思いますけれども協

力を得られて無事行かれることになったんですが、何とですね、私が職種青少年活動ということですね、職種を選ばせていただいたんですけれども、実際にはジャマイカのところでエイズ対策という形で活動するということですね、要請が来ました。

まずジャマイカの話をしていただきます。ジャマイカ実は恥ずかしながらですね、どこだったかなアフリカだったかなってちょっと思ったんですけれども、地図で調べるとああここかというところでして、とても面白い国でした。日本のちょうど裏側にある時差14時間のところなんですけれども昼と夜が逆になっています。人口が273万人ですね、面積がここに書いてあるとおりになんですけど大体日本の秋田県ぐらいの広さだそうです。年間平均気温が大体30度ぐらいでいつも常夏です。ジャマイカ人は12月・1月を冬だと言ってるんですけど半そでですらやっていける感じです。公用語は英語です。日本とジャマイカのつながりは大体ボブマーリーとかですね、ブルーマウンテンコーヒーが知られているところですね。ジャマイカの歴史ですけれども、コロンブスが発見して最初はスペインの植民地になるんですけれども後にイギリスの植民地となります。ジャマイカ人の先祖はアフリカから連れてこられた奴隷ということになります。そして1962年に独立するわけです。ええ食べ物はですね私の口にとっても合ってますね、食べるのが好きな私としてはですね、これをエネルギーに活動を頑張ることができたんですけれども真ん中にあるのがアキといわれている食べ物です。これは熟さない毒があるんですけれども火を通す、熟してこれがパッカリ開いてですね、火を通すとおいしいフワフワのスクランブルエッグみたいな形になってアキ・アンド・ソルトフィッシュとして、伝統的なジャマイカの料理になっています。こちらがジャークチキンです。とってもジャマイカ人は鶏肉が大好きです。ええ自然もですね、絵を例えると背景とかがとってもきれいだと思うんですけれど、美しい青色にキラキラと輝く海、夕焼けもピンク色に染まって日本の夕焼けとは異なった美しさをしていました。私の家は大学の構内にあるグレートハウスというなんかゲストハウスですね、ゲストハウスの一角に住まわせてもらっています。とてもロケーション的には海も見えてきれいなんですけれどもキッチンがおトイレのところで使ったりとかそこでちょっとお料理をする形でそれはちょっとストレスだったと思うんです最初の慣れないうちは。こちら自然災害のハリケーンです。私が任地に派遣されて2週間しかたっていないところで大きなハリケーンが来て、そうですねジャマイカは電気もそして水道も水道水も飲めるくらいにとっても後進国とはいえないような便利さもあるんですけれども、さすがにこのハリケーンが来たときには水道が止まり、そして電気が止まるということで1ヶ月ほどとても暑い夏を過ごしました。扇風機もあるんですけれどももちろん電気が使えないので扇風機は使えないわけですから寝苦しい夜を避けるために窓は開けるんですけれどジャマイカの蚊が私の手足を襲いましてすごい発疹だらけの毎日なんですけど、寝ている間に加減なく掻いてしまつて次の日血が出てしまうくらい掻いてしまうんですけれどもしかしやはり暑さにはかなわず窓を開けていてしばらく任地でまだ人間関係もできていないところですので夜は孤独に過ごすわけなんですけれどもこの時に入ってきたトカゲちゃんがこの後2年間ずっと

私の同居友達ということで、最初気持ち悪かったんですけどトカゲがヒタヒタヒタと壁を這う姿が、しかしそれが夜中にヒョロヒョロと出てきたりまた引っ込んだりとかその姿を見ていると一緒に過ごしている仲間という気持ちになりました。えーとハミングバードというハチドリが私の部屋へなぜか入ってきましたでですね、初めてみることができました。しかしこのハリケーンはすごく大きいものでたとえばトタンの家なんか多いんですけどもその家の屋根を吹き飛ばしてしまっただけで2日間土砂降りが続く状態ですので家財道具やらなにやらすべて駄目になってこの後ですねとても苦しい生活を強いられることになるジャマイカ人が少なくなかったです。こちらがジャマイカの学校の様子です。学校それぞれによってですね、ずいぶん施設面が違ってきます。真ん中の上のような学校なんですけれども2・3階建てのコンクリートのものから左端上のはコンテナをちょっと改良したようなものですね。その下は1階建ての、この形がわりと多い形です。窓は鉄の格子がついている形になっています。防犯上だと思われれます。しかしジャマイカ人の笑顔はすごくくったくなくない笑顔で、貧しいのになぜこのくったくなくない笑顔なんだろうって思わせられました。

教育システムですけど小学校にあたるプライマリーから小中一貫のような1年生から9年生まで通うようなものがあるってそして6年生になったときにGSATというようなテストを受けるんですけどもこのテストで成績のよかった者はハイスクールの方に通うことができるというようになっています。

ジャマイカの紹介の後には私の要請内容なんですけれども、先ほどもちょっと触れましたけれども、エイズ、青少年活動の中でもエイズ対策の一員としてですね要請を受けました。ちょっと読ませていただきますと2002年ジャマイカ保健省ですけどもジャマイカHIV/AIDS国家戦略計画を策定しました。5カ年計画なんですけれども、これまでずっと保健省がリードしてきたんですけども国をあげてプライベートもすべてセクションは一丸となってやっていかないと太刀打ちできないということですね、国をあげての政策となりました。それで保健所以外も含めた包括的な取り組みが必要ということですね、特に感染者の多い10代に対しては学校教育を対策の基本とすることを掲げました。そのため学校教育を統括するジャマイカ教育青年文化省が、日本の文科省にあたりますが、ユネスコの支援によって配置する健康教育担当官、ヘルスプロモーションスペシャリストと呼ばれていましたけれども、この健康教育担当官を各支局の方に置いてそしてHIV/AIDS予防教育を給するとこのカウンターパートと一緒にHIV/AIDSの予防教育をともに普及するというのが要請です。HIV/AIDSなんですけれども、やはりサブサハラアフリカがダントツに高い感染率なんですけども、それに続きましてジャマイカのあるカリブ海地域が高い感染率になっています。ジャマイカはこのカリブ海地域の中でも2番目に高い国となっています。こちら赤い棒グラフが感染者数で白いところが死亡者数なんですけれども1998年あたりからいきなりすごく増えていることがグラフによってお分かりになるかと思います。感染者数は推定2万2千人というふうになっています。でこれを死者が計算しますと毎週13人亡くなっていることになって片親もしくは両方の親を亡くしてしまったエイズ孤児も推定5千

人と増えている形となっています。なぜこのようにジャマイカでエイズの感染が高いのかということで分析を、私たちのみならずユネスコ・ユニセフいろいろな機関で情報を分け合っているんですけども考えられる要因がこういうことではないかということで貧困、まず貧富の差がすごく激しいです。日本とほとんど変わらない景色が見られる一方、もうトタンの崩れそうな川沿いで子供を学校に通わせることができない、子供は一杯いるんですけども例えば子どもを5人6人抱えていながら同時に送ってやることができない、お昼のランチ代を持たせることができない、交通費を払ってやることができないということで代わりばんこに行かせてやるような、そうせざるをえないような現状もあります。物価がすごく高いんですジャマイカは。日本とほとんど同じですね。なのにもかかわらず最低賃金が1週間に約5千円ですね。5千円で日本の物価と同じ状態で子どもを3・4人5人抱えてそして片親で育てているというんですね、家庭が非常に多く、貧困のために例えば年端もいかない少女がお小遣いを期待して、もしくはそれによって強要されて性行為を強要されるようなことがあるとか、HIV/AIDSという名前は知っていて性行為をすればうつるんだとは分かっているけども例えば水の中でやれば大丈夫だろうとか、なんかとても都合よかったり何となく曖昧な知識が故にこれで大丈夫だろうとか、これじゃ危ないとか勝手な判断がなされたりとか、HIV/AIDSの差別も多く実はHIV/AIDSが一番問題となるのがこの差別偏見だということをすごく痛感しています。私も英語教員でしたのでこの保健分野の例えばHIV/AIDSについて詳しく知っていたわけではなく行く前に5日間の技術補完研修でですね、学んでそして全く例えば担任をしていると生徒に配るようなリーフレットが来ますよね、それを配って簡単に説明するだけだったんです。すごくよく知っているわけでもないのでも何となく配ってよく読もうと言って一緒に読んでそこでちょっとお茶を濁している形だったんですけどもHIV/AIDSの人権センターの五島マリーさんという方を講師に迎えて技術補完研修を受けたときにHIV/AIDSは2度の死を味わわなくてはいけない、恐怖を味わわなくてはいけない、1つは身体的なものですけどもう1つは社会的な死ということで、職場で、そして家族から友人から離れていかななくてはならない、離れざるをえない、そういった社会的死の部分が非常に大きいんですね、そしてそれがHIV/AIDSのテストを受けるのをみんな躊躇わせてしまう1つになっているんですがジャマイカでもこの差別・偏見が大きな問題となっています。あと迷信があるんですけども中高年の例えば性病を持った人はバージンと性行為をするとそれが治るというような迷信があってだから頼むから俺を治すと思ってというようなそういう迷信があったり、で少女はそれによって自分がどうなるかを知らずこのおじさんの助けになるならという形でですね性行為を持つようなこともあります、ありました。あとですね、性行動ということですごくオープンなので男の子の最初の性行為を持つ年代が13歳、女の子は15歳が平均ということがいわれていまして、これは訓練所時代に知ったんですけどもとても驚いたことです。これが年代別の患者数ですね。このようなものを使ってワークショップを行いました。性に関してとても開放的なんですけれど、これがコンサートのチラシなんです

けれど、路上で配られたりポスターとして貼られたり、これがカーニバルの様子なんですけど、こういうように男性が女性の後ろにピタッとくっついてですね、踊りなんですけどまるで性行為をしているかのような踊りがあったりだとか、全員が全員じゃないです、でもちょっとこう開放的な人もいるということですね。

それで要請業務内容なんですけど、学校による HIV/AIDS 予防教育によって生徒が適切に HIV/AIDS 予防の知識を得ることができようなことを目標に、私たちチーム派遣だったんですけど他の支局の隊員と連携しながら現場調査やエイズプロモーションスペシャリストがわれわれ学校関係者、校長先生とか理事会の人とかガイダンスカウンセラーに対してワークショップを開くということを主にしていました。でその後学校実際に行き届いて実施されているかなどを問題にしました。文科省にあたる教育青年文化省、6カ所あります。こちらがそれぞれの支所に配置された隊員でチーム派遣ということになっています。それぞれ自分が作ったパワーポイントなどを交換することができまして、こちらがそのカウンターパートと私たちが月1回もしくは2月に1回集まって今度のプロジェクトをどうするか話し合っているところです。私が住んでいたのはこのポートアントニオというところで一番自然が美しいところです。こちらが私の毎日通っていた支局で自分のうちから歩いていけるところです。ジャマイカでは各学校にガイダンスカウンセラーというのが1人もしくは2人ずつ配置されていて進路相談から体の相談、経済的な相談から、保健の先生プラス進路の先生のような役割を果たしていて、で各クラス週1回くらいの割合で授業を行っています。何の授業をしているかという衛生部分とか人間関係だとかで今回 HIV/AIDS のことも Family&Life Education という授業の中に入れていこうということがこの計画で始まったところです。われわれの活動まだ入って間もない頃ですけどもジャマイカの全国紙であるグリーン紙で取り上げていただいたことがあります。

で実際の内容なんですけれどもどういったものを学校に広めていこうとしたかといいますとワークショップを使ってですね、HIV/AIDS に感染しているからといって、うちの子にうつるからとコミュニティがその子を排除する動きがあるんですね、そういうことをさせない、HIV/AIDS の病気というものは、感染ウィルスというものはこうしたものではうつらないのだから学校と一緒にいることができるということですね、HIV/AIDS ウィルスの性質を説明してだから置いても大丈夫なんだよと、理由とともに指導を徹底していくという、HIV/AIDS 感染者の授業に参加する権利、もしくはこれは教員にあってもそうです、それから入学するにあたってもしくはスタッフが学校に勤めるにあたって例えば食堂のスタッフに HIV/AIDS に罹っているかテストを強要されることがあってはいけない、それから差別をしてはいけないということですね、もし子どもがこの先生なら大丈夫と思って打ち明けてきた場合があります、カウンセラーもしくは教員に、その教員は誰にも、例えば校長先生であってもそれを言うてはいけない、守秘義務ですね、それから10代先ほど言いました性行為が一番活発なときですのでこの子たちに予防教育をしていこうということですね、それから小学校の子どもたちの場合すごく暴れますので、休み時間も外に出てケ

がしたとかそのときのケガの扱いですね、ビニールの手袋をはめて扱うということです。こちらが私とカウンターパートがワークショップを開いているところです。パワーポイントを使って説明しました。パワーポイントに関してもエイズのことについてもすべてが技術補完研修それから訓練所で急いで身につけた技術ですそれまではパワーポイントも全然使ったことなかったんですけれども、訓練しました。こちらがコンドームの使い方を説明して予防教育を教会もしくは学校でやっているところです。

ジャマイカ人は踊ったり歌ったりするのがとても得意なんでそれを取り入れた方がいいだろうということで歌とか踊りとかそれでエイズについて学んだことを紹介してくれということで **Lesson for Life** というキャンペーンなんですね、**World Aids Day** を受けて行いました。あと学校を訪問してワークショップの成果がどれだけあったかをチェックしていきました。というのは例えば学校訪問をしていたときにこんな話が出たんですね、うちはあの学校から転校生を迎えたと、なぜ転校をうちの学校にせざるをえなかったかというところ向こうの学校でお宅はうちの学校に来ないでくださいと、お母さん・先生が言ったそうなんですね、なぜかというところですね、あなたを刺した蚊が私たちを刺して感染するといけなからということですね、そういう形で転校せざるをえなかったとあって、その学校は悲しいことにわれわれがワークショップを行った学校だったんですけれども、参加していた先生が参加しっぱなし学校に戻って校長先生なり他の先生に広めていなかったばかりに、それがワークショップを行った学校であったにもかかわらずその学校でそのような差別的な活動が学校によって生徒になされたことは非常に残念でした。そういうことをなくすために各学校の訪問をしました。**World Aids Day** の時のイベントです。ダンスを使った発表とかしました。

われわれはですね、例えば私はエイズ対策という特殊な形で来ましたが皆さんは例えば 10 代の青少年に関わる一番身近な立場だと思うんですね、例えば理科とか数学とか音楽とかいろいろなことを教えることだと思うんですけど、ぜひこの **HIV/AIDS**、私も行くまではこの機会をいただくまでは本当に無知な状態だったんですけれども皆さんも訓練期間中を利用していただいてちょっと勉強していただいて感染の高い地域である可能性が高いと思いますので予防教育をあわせてやっていただくととてもいいかと思うんですね。

果たして日本はどうかということ（2006 年）7 月 9 日の朝日新聞です。日本でも先進国で唯一感染者を増やしているような残念ながらその悪名高き先進国の 1 つとなっていますので、果たして日本でこれからどう指導していったらいいのか考えて行かなくてはいけないと思います。

持って行くものとしてこんな浴衣だとか折り紙とかですね、ちょっとカラオケとかそんなものを持って行くところですね、エイズ教育をやった後の文化交流などでですね、活かせるかと思います。

私が帰国してから何をやったかということなんですけれども、生徒に私の体験を話しました。ほとんど皆さんにお話したことと似ているんですけど。どういうふうにしてちょっと

飽きられていてずっと持ち続けていたんだけどよしやってみようと思って協力隊に踏み込んだか、これを本当に 10 代の生徒、小学生であり、中学生であり、高校生であり、それと私たちがいて必要な勇気で変わらないと思うんですね。だけど踏み込んでみたわけですね、私たちの夢を叶えるという勇気を帰国して伝えることができればと思って伝えたところですね、いろいろ感想文を書いてもらって夢をあきらめないということの大切さをあわせて話しました。HIV/AIDS のこと、それから夢をあきらめないこと、それから国際理解のことなどですね、固定観念を持っていたこの国、ただ暑いだけなんだろうとか貧しいから可哀想なんだろうとか顔がね貧しいって辛い顔しているんじゃないかとか、そうした固定化したイメージを払拭すること、それから経験して 1 年たったんですけれども具体的にどうしていったらこの開発的な教育のことですね話していったらいいのかを私もまだ試行錯誤の状態です。今年からまた開発教育というものにちょっと目を向けてみて勉強しようと思っているところです。ありがとうございました。



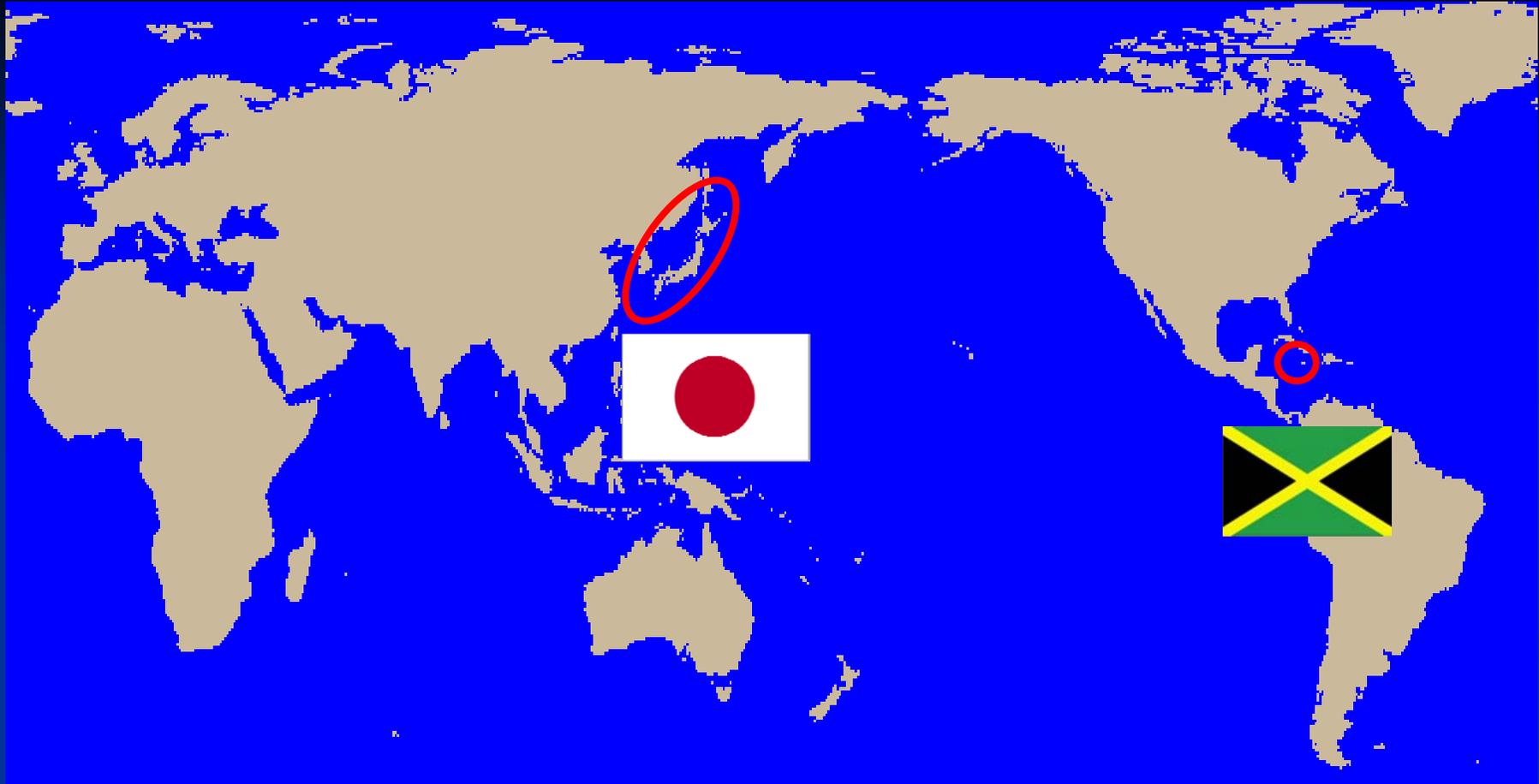
# 青年海外協力隊 現職教員特別研修 活動報告

横浜清陵総合高等学校

金森 万美江



*Jamaica*



人口 273万人  
面積: 10,991km<sup>2</sup>  
年間平均気温:  
27~32°C  
公用語: 英語  
(方言: パトワ語)



# ボブ・マーリー



# ブルーマウンテン コーヒー

# ジャマイカの歴史

**1494年** コロンブス上陸

**1509年** スペインの統治

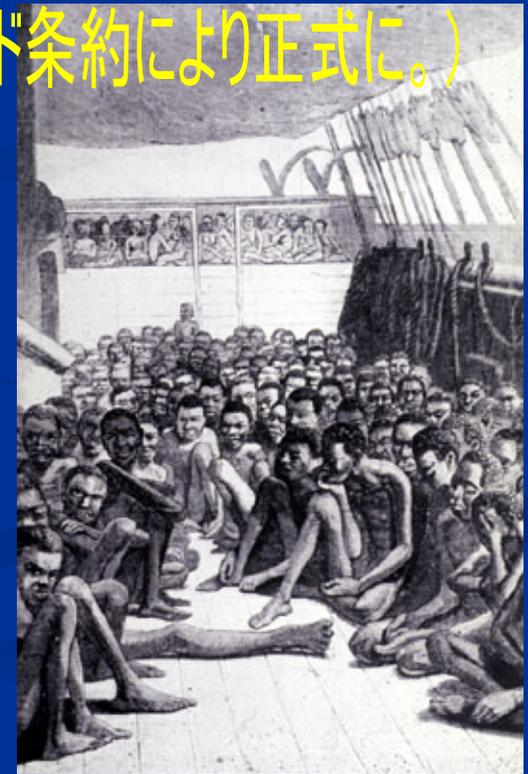
**1655年** イギリスの植民地となる(1670年のマドリッド条約により正式に。)

## 奴隷貿易の活発化

**1803年** 奴隷貿易廃止

**1838年** 奴隷制度廃止

**1962年** ジャマイカ独立



# 通貨: ジャマイカドル (1JD = 2円)



# 食べ物



アキ&ソルトフィッシュ



ジャークチキン



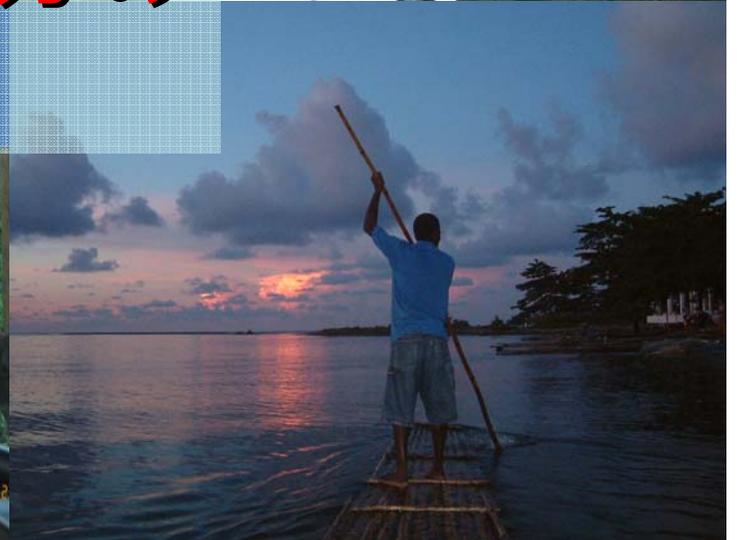
ライス・アンド・ピース



フェスティバル



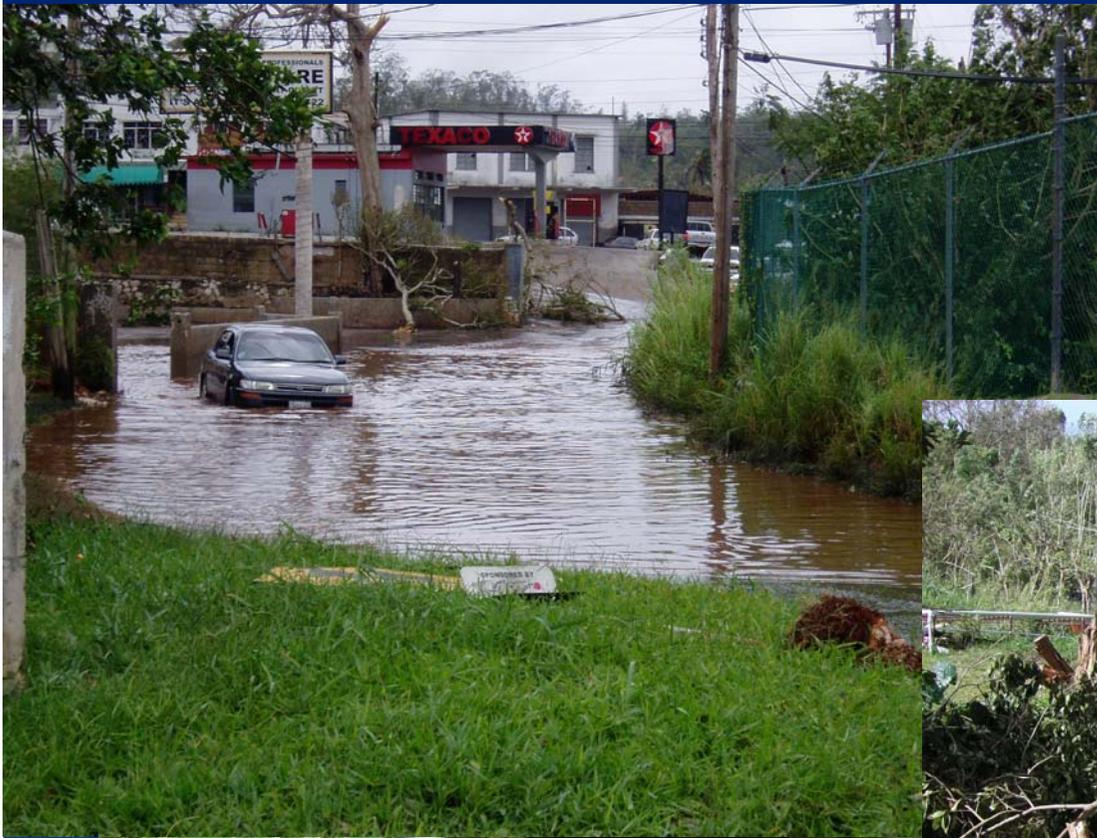
# ジャマイカの 自然

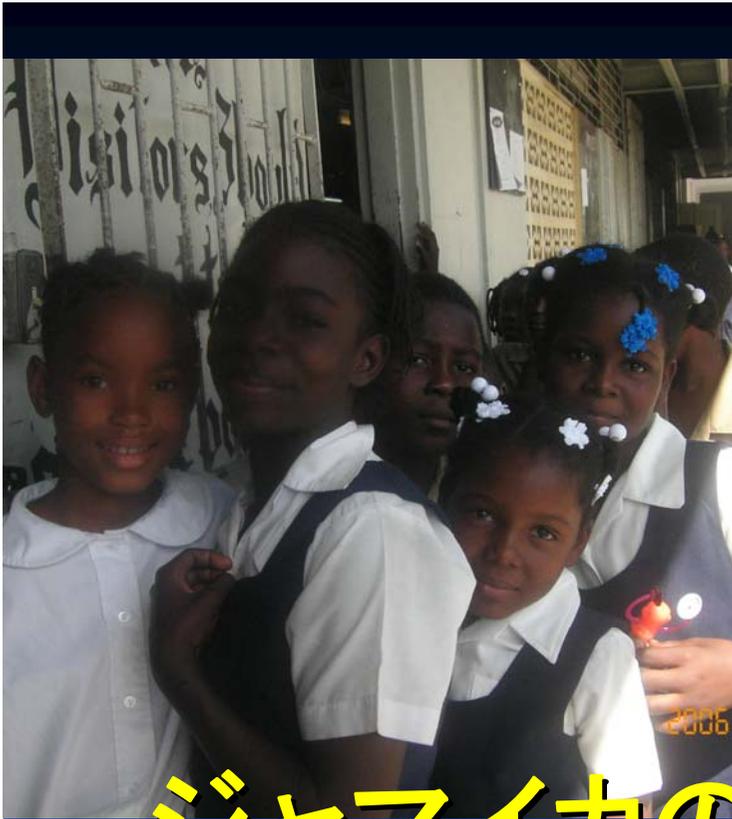


# My house



# 自然災害:ハリケーン





# ジャマイカの学校



# ジャマイカの教育システム

幼稚園 (Early Childhood Edu.)

小学校 (Primary) 1～6年生

小中学校 (Primary&Junior High) 1～9年生

田舎の小中学校 (All Age) 1～9年生

6年生統一テスト (GSAT)

高校 (High) 7～11年生

カリブ統一試験 (CXC)

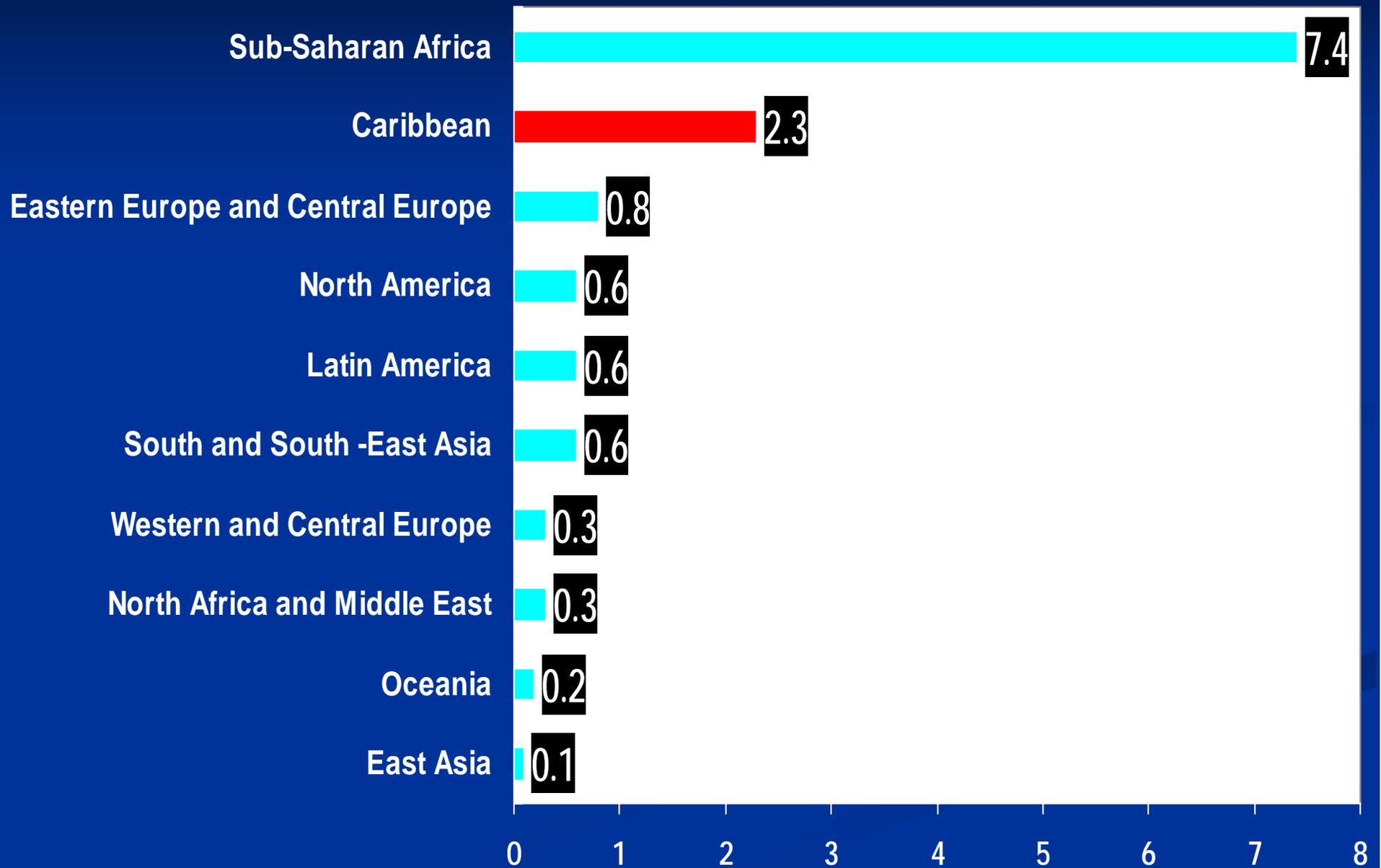
大学 (単科・総合)

**要請内容**

# 要請理由(目的)

- 2002年ジャマイカ保健省は**ジャマイカHIV/AIDS国家戦略計画**を策定し、保健省以外も含めた包括的な取り組みが必要と述べ、特に感染者の多い10代に対しては学校教育を対策の基本とすることを掲げた。そのため、学校教育を統括する**ジャマイカ教育青年文化省**はUNESCOの支援により配置する**健康教育担当官**が学校において**HIV/AIDS予防教育を普及**できるようにJICAに協力を要請。

# Adult (aged 15-49) HIV Prevalence rate in 2004



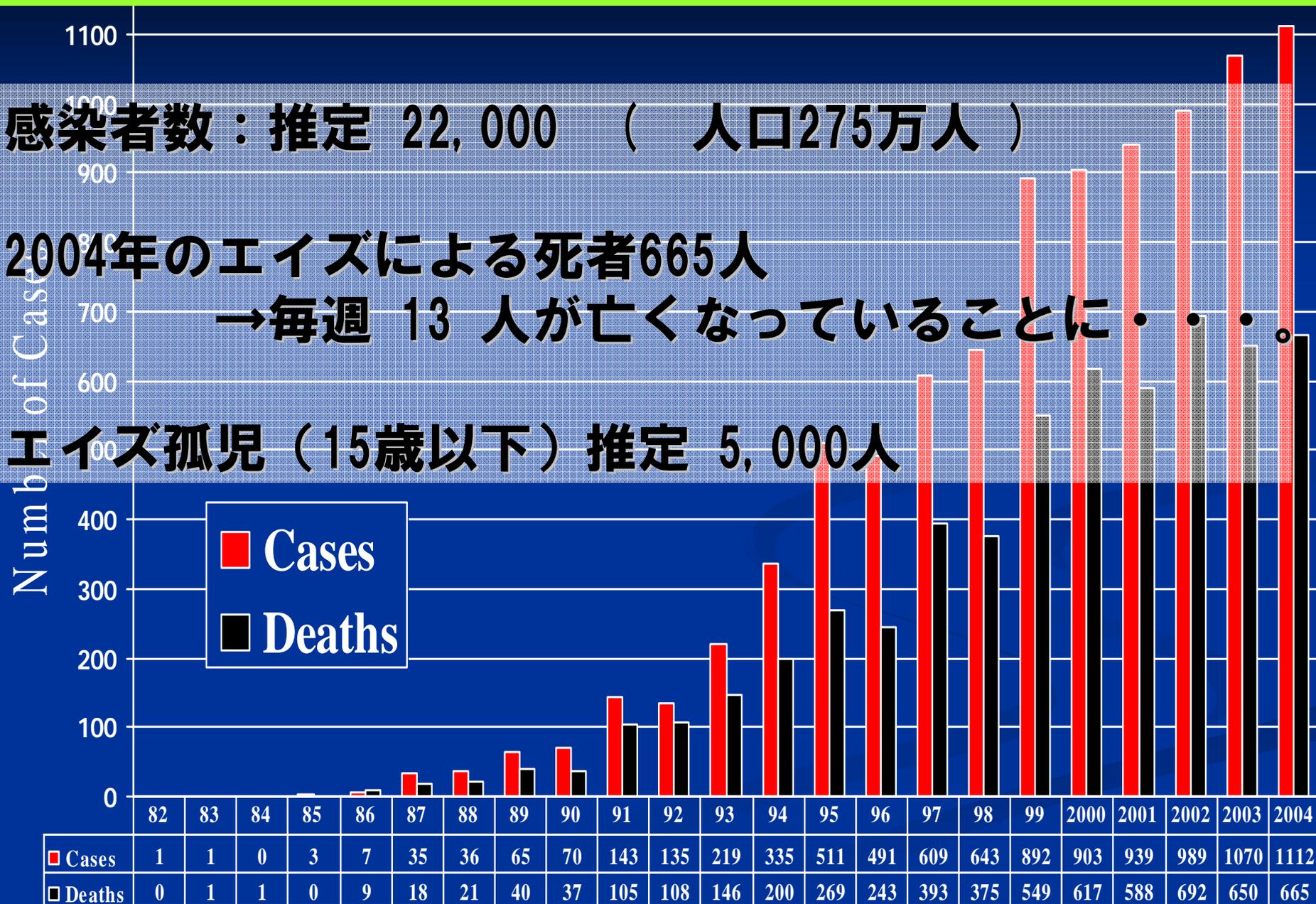
# ジャマイカ エイズ患者数 & 死亡者数

感染者数：推定 22,000 (人口275万人)

2004年のエイズによる死者665人

→毎週 13 人が亡くなっていることに・・・

エイズ孤児（15歳以下）推定 5,000人



# ジャマイカでHIV/AIDS感染率を高めている要因

◆ 貧困

◆ 知識不足

◆ 差別

◆ 偏見

◆ 移住

◆ 迷信

◆ 性行動

◆ 売春

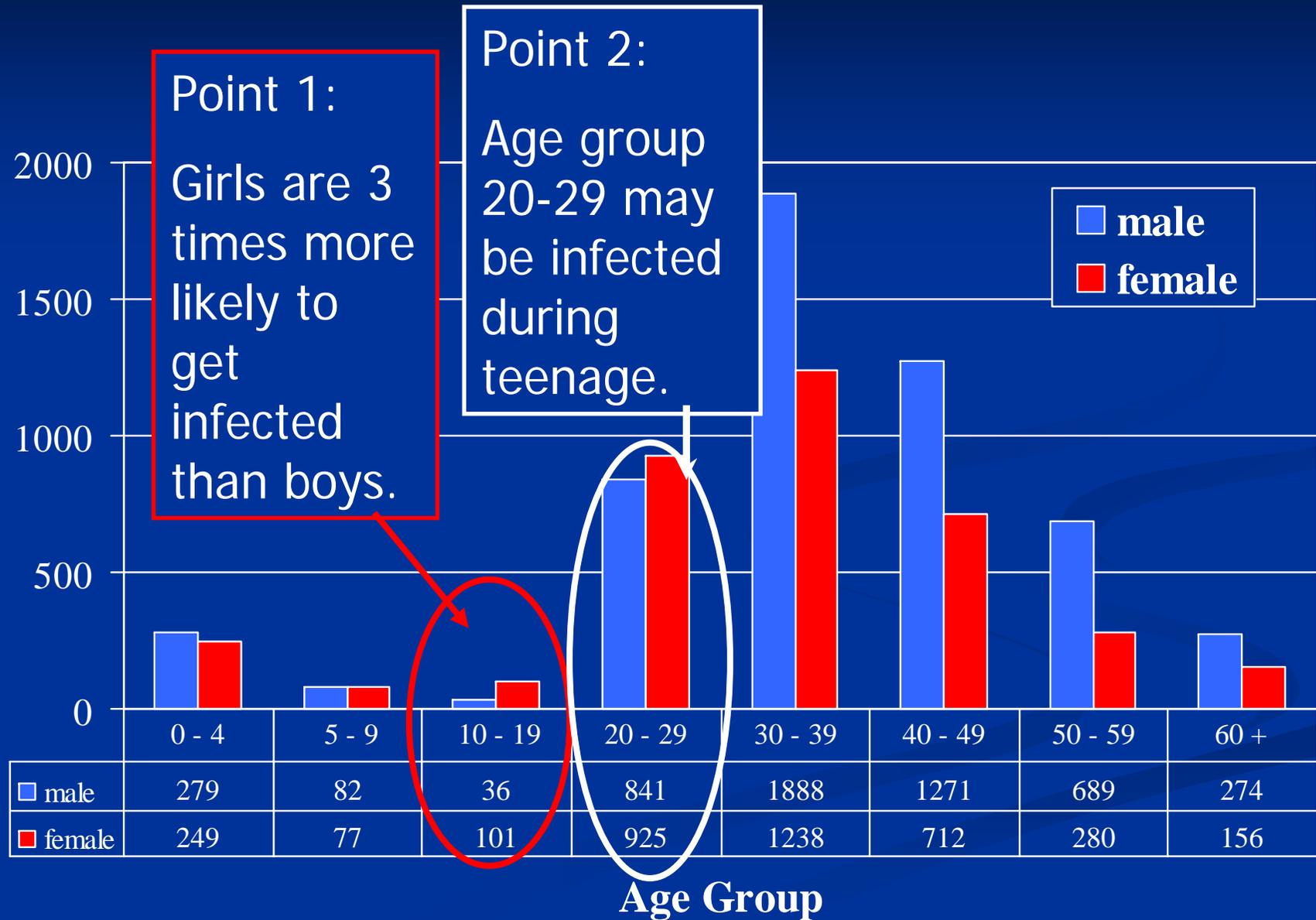
◆ 同性愛者

◆ 薬物使用

◆ 性感染症

◆ 性観光業

# ジャマイカ性別・年代別エイズ患者者数 1982 - 2004



# 性に関して開放的なジャマイカ

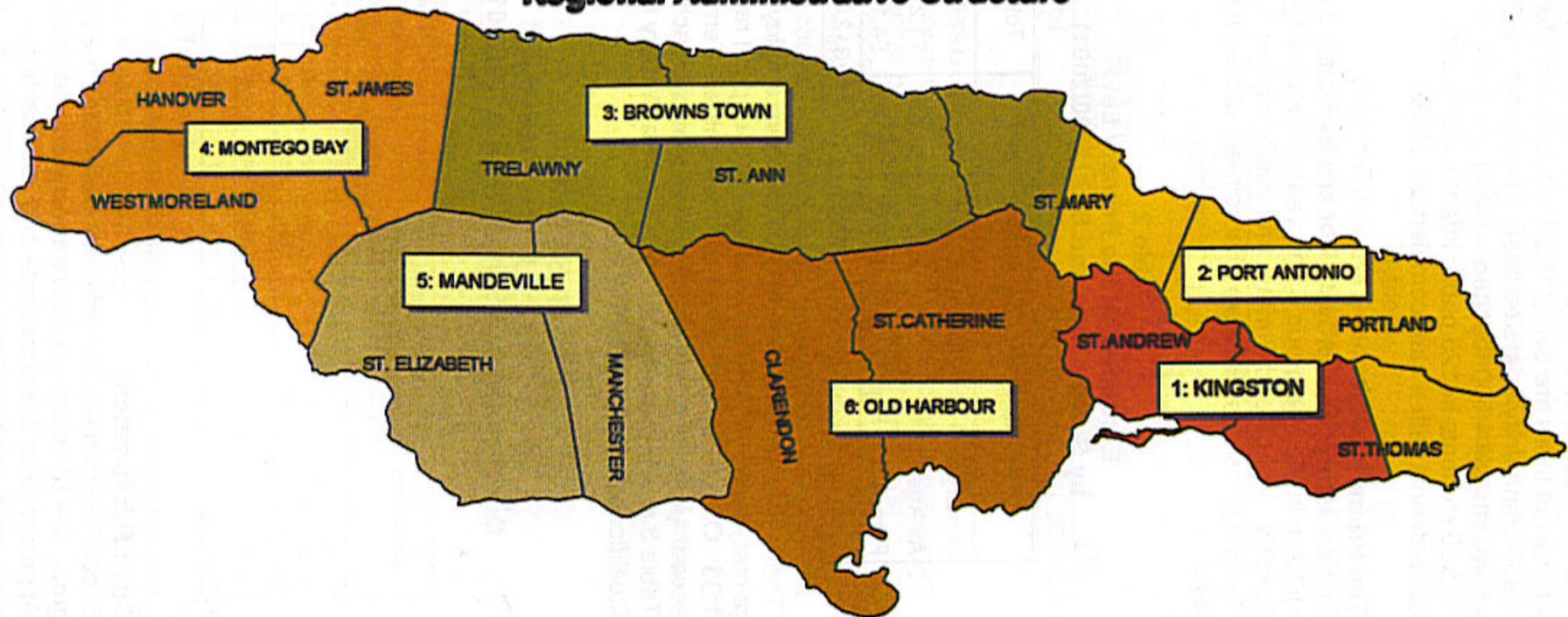


# 要請業務内容

- 学校におけるHIV/AIDS予防教育により生徒が適切にHIV/AIDS予防の知識を得ることができるようになることを目標に、JICAの専門家・シニア隊員・他の協力隊員等と連携して、現場調査、各地方事務局の健康教育担当が行う学校関係者（場合によっては児童・生徒・保護者含む）への研修の計画・実施・モニタリング評価やカリキュラム・関連教材の作成・配布の支援、大学や地域の関係機関との連絡調整を行う。

# 教育青年文化省

## Ministry of Education, Youth and Culture Regional Administrative Structure



# エイズ対策チームの7人



# 教育省エイズ対策チーム



# 私の住んでいた場所：ポートアントニオ





私の任地

教育青年文化省

ポートアントニオ支局



ガイダンス & カウンセリング部

# エイズ対策隊員についての記事

## Japan contributes to HIV/AIDS education

**I**N VIEW of the alarming increase in the number of persons infected by HIV/AIDS worldwide, the Japan International Cooperation Agency (JICA) has started to place greater emphasis on prevention of the epidemic.

Jamaica is the first country outside of Africa that will benefit from this new move. During the current financial year, the Government of Jamaica received a grant of US\$226,000 through Japan's 'Funds-in-Trust' for human resource development, which is managed by UNESCO specifically for the fight against HIV/AIDS in schools.

JICA activities in HIV/AIDS prevention have focused on a wide range of activities such as the following:

- Educational activities regarding prevention in schools and youth facilities.
- Preparation of teaching materials and documents for HIV/AIDS prevention and educational activities.
- Support for the management and implementation of various HIV/AIDS programmes.
- Maintenance of information regarding organisations supporting the fight against HIV/AIDS and support for information management of human resources.
- Assistance in local research and technical guidance for

income support activities to patients and those affected.

- Provision of a variety of information to patients and those infected.
- Promotion of cooperation and co-ordination between agencies involved.

### ASSISTANCE

The Jamaican Government requested the assistance of the Government of Japan in its fight against HIV/AIDS within the educational system. The prevalence of the epidemic among young people and children had started to show unacceptable levels fostered by problems of poverty and unemployment which are fertile breeding grounds for the epidemic. Alarming, the school-age cohort of persons below 19 years has recorded a significant proportion of all cases since the epidemic was first discovered.

The education sector's response to the HIV/AIDS epidemic has largely been through the medium of the Health and Family Life (HFLE) programme in schools administered by the Guidance and Counselling Unit. Along with other external agencies, there was the concern that insufficient focus was being placed on the epidemic. Further,

### Breaking the silence

Dispelling the myths about HIV/AIDS

the epidemic has passed the stage of being an affliction of high-risk groups to one affecting the general population.

Jamaica's National Strategy Plan (2002-2006) for HIV/AIDS stressed the need for a multi-sector response to the crisis and thus, the importance of the Ministry of Education, Youth and Culture (MOEYC).

The ministry's response was the development of a strategic plan of its own. The plan was an attempt to address deficiencies in the approach of the MOEYC in

addressing issues such as the need for a clear policy direction, a refocusing in the HFLE curriculum, lack of capacity both in human resources, strategies and teaching materials.

Early work by UNICEF and UNESCO was instrumental in setting up the institutional framework, policy, plans and early capacity building for the MOEYC's response. The MOEYC's plan has sought to promote and sustain equity in all aspects of the school programme and to empower the school community with the knowledge and skills to initiate and sustain healthy relationships and reduce vulnerability to HIV/AIDS.

### STRATEGIC PLAN

In support of the implementation of the strategic plan, the

MOEYC sought the assistance of JICA in 2003 through the services of the volunteer programme in HIV/AIDS. In September 2003, a JICA two-person mission sent in response to the request, designed elements of a draft strategy built on volunteers being placed in the six regional offices of the Ministry of Education, Youth and Culture to support the ministry's strategic plan for HIV/AIDS.

In March 2004, a full-fledged mission dispatched from Tokyo sought to get a first hand experience of the HIV/AIDS situation in schools and to report back to Tokyo. The mission, along with the JICA local HIV/AIDS consultant, visited a number of schools across the six regional educational divisions.

JICA also mounted a one-day conference of all external agen-

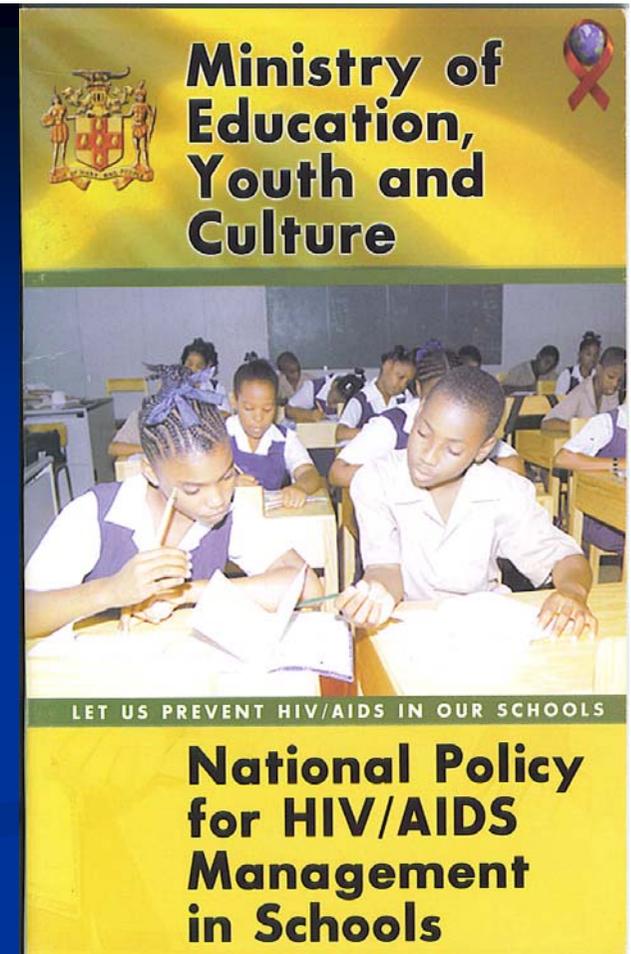
cies, along with staff of the regional offices, including directors, and the management of the MOEYC's Prevention Education programme - the ministry's response programme - to better understand the contribution of each agency and to determine more precisely the specific contribution volunteers could make to the MOEYC'S programme and the wider HIV/AIDS programme. The intention was also to determine how best volunteers could work with the MOH and MOEYC in the activities in which they would be involved and how they would work closely, more directly and collaboratively with health promotion specialists (HPS) and guidance officers employed by the MOEYC

Please see JAPAN, A8

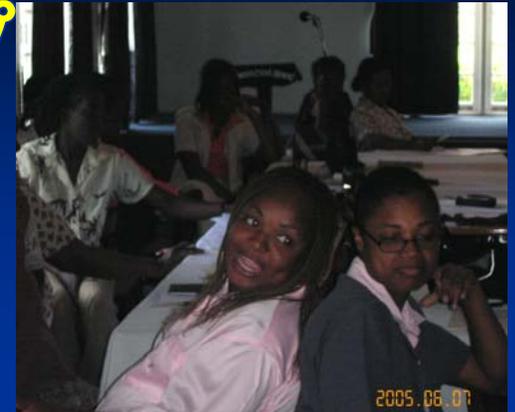
(グリーンナー紙 2004年9月20日付)

# 「学校でのHIV/AIDS 対応方針」

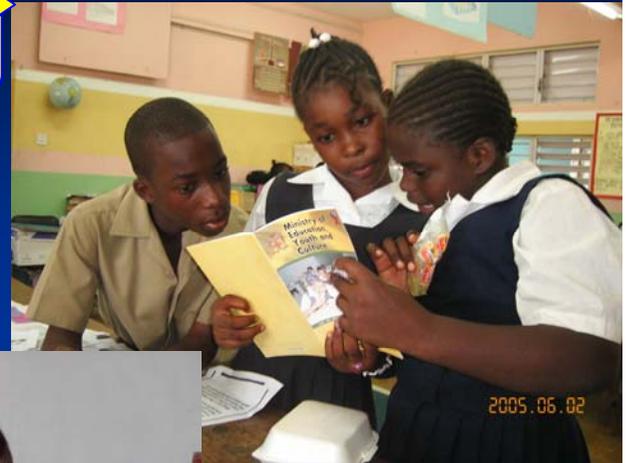
- HIV感染性の授業に参加する権利
- 入学や就業のためにHIVテストを  
することの禁止
- 差別の禁止と平等
- 任意でHIV感染が明かされた時の  
守秘義務について
- HIV/AIDSの予防教育
- 安全な学校の環境づくりについて
- スポーツ時の怪我の対応について



# 「学校でのHIV/AIDS対応方針」を普及するワークショップ



# HIV/AIDS 予防教育



# 「命のレッスン」 キャンペーン



# 学校訪問



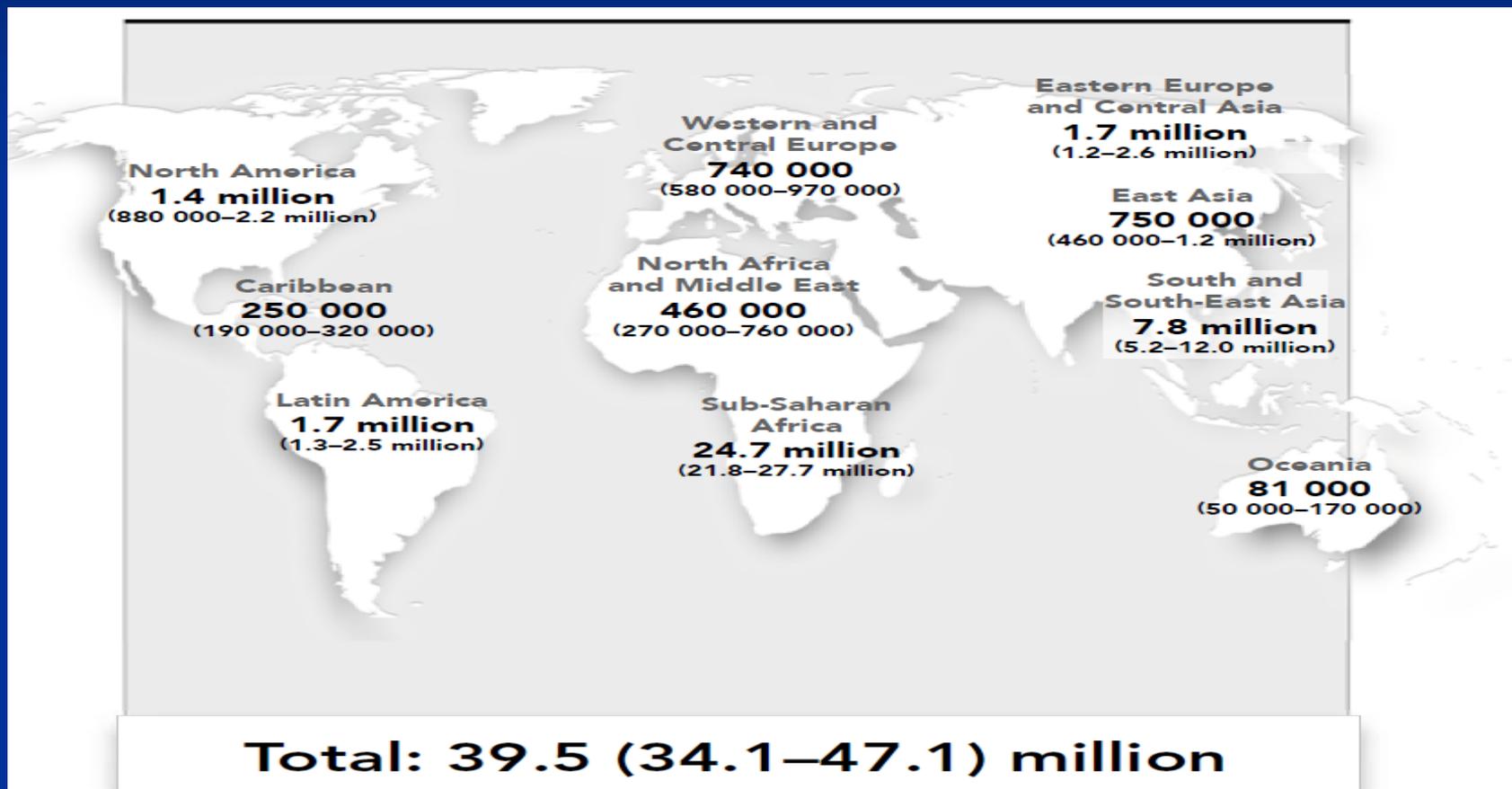
- ✓学校でのHIV/AIDS対策方針が浸透しているか
- ✓ヘルス・ファミリー・ライフ教育の時間がカリキュラムの中に入っているか
- ✓各校に健康諮問委員会の設置を促す

# 「ワールド・エイズ・デー」イベント



# 2006年のHIV感染者数

UNAIDS(国連合同エイズプログラム) <http://unaids.org/en/>



**UNAIDS**  
JOINT UNITED NATIONS PROGRAMME ON HIV/AIDS

UNICEF  
WFP  
UNEP  
UNFPA  
UNODC  
ILO  
UNESCO  
WHO  
WORLD BANK



**World Health Organization**

体液はどれもがHIVウィルスを感染するのか？

**感染する可能性のある体液 &  
感染する可能性のない体液**

感染する可能性の  
ある体液

- 血液
- 精液
- 膣分泌液
- 乳液

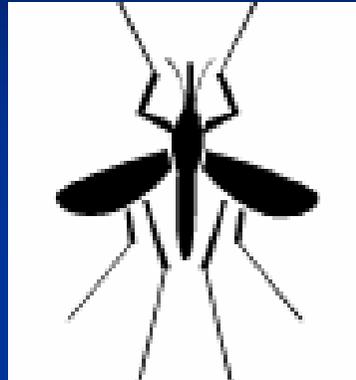
感染する可能性の  
ない体液

- 唾液
- 汗
- 涙
- 排泄物

# You cannot get HIV/AIDS from:



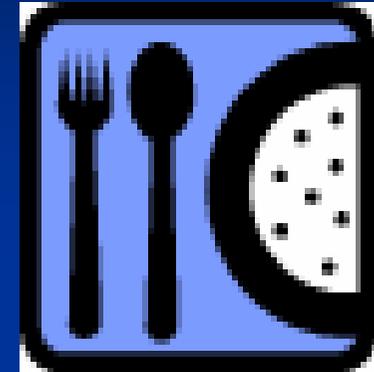
Riding a bus or taxi with someone with HIV/AIDS.



Mosquitoes



Food prepared by one someone with HIV/AIDS



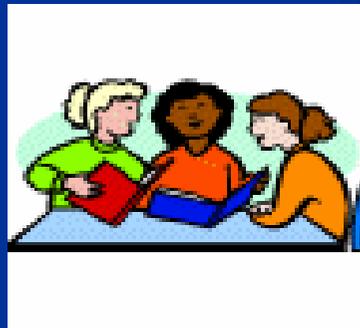
Cups, dishes, utensils used by someone with HIV/AIDS.



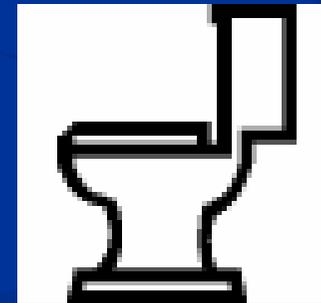
Being sneezed or coughed



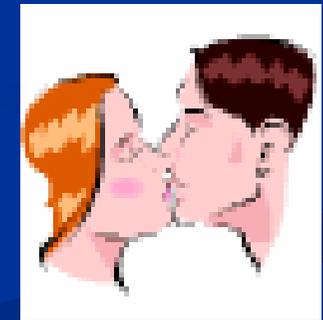
Shaking hands or hugging



Living, going to school or playing with someone with HIV/AIDS



A toilet seat



Kissing

# 果たして 日本では…?

2006年7月9日  
朝日新聞

## 性体験の低年齢化 10代・大人はどう見る

性行為を経験する年齢が早まり、10代の妊娠中絶や性感染症も少なくなっている。10代の意識と、大人の見方は。(平山亜理)

若い世代を対象にしたカラフルな避妊具も店頭に並んでいる。東京・原宿で、郭允撮影



### 17歳で出産、高校は中退 多い「自分は妊娠しない」

1歳半の息子を抱きながら、横浜市内の少女(18)は「好きだったから」と、元同級生との性体験を話す。16歳で妊娠、17歳で出産。普段つけていたコンドームはその時手元になかった。彼は「おろして」と言ったが、産んだ。2人とも高校を中退。自分の両親と息子の4人で住み、夜ヒザ

だ。その一人が書く子育て日記を毎日インターネットで読む。「同世代のママが何しているか気になる。不安だからかな」  
「うちの子に限って、と思った」と母(50)は打ち明ける。孫の世話のため、週5日働いていたのを2日にした。「早すぎる妊娠は、親も含め、周りに大きな影響を与える」と話す。

横浜市内のある産婦人科医院。10代で中絶に来る子には、相手とその親計4人が朝7時に集まるよう求め

### コンドームの使用状況 「毎回」、女子は3割

厚生労働省が04年末、全国3千人の男女に実施した調査では、過去1年に性交渉をして毎回避妊したのは、16~19歳男子で54.5%、女子は31.3%にとどまった。

東京都港区の産婦人科「赤枝六本木診療所」には、中絶や性病を何度も繰り返す少女も来る。「彼がコンドームを着けてくれない」という。夏休みや冬休みの後に増える。赤枝恒雄医師(62)は、7年前からカフェなどで若者に街角相談をし、コンドームの着け方教室も開く。「最初の段階で教えないと、とんでもないことになる」

日本家族計画協会クリニック(北村邦夫)

### ビデオやネットにあふれる性情報 「読み解き方教えるべき」

「子どもたちは、ある意味で社会の被害者。自分の身を守ることができるように、性情報を含めた情報の読み解き方も教えるべきだ」。

京都大学の木原雅子助教授(52)は、社会疫学は、そう話す。

これまで、20万人以上の中高生らに性行動調査をしてきた。「性行為を前提にするのでなく、丁寧な人間

関係を築くことの大切さを伝えることが必要」という。

10代の若者は、漫画やビデオ、ネットなど、あふれる性情報にさらされ、性交渉をせかされていくと、感じている。

木原さんらが実施した04年の全国公立高校生1万人調査によると、高校生のうち性交渉に肯定的な生徒は

全体の7~8割だった。高1男子以外は、性経験者のうち相手の人数が「4人以上」と答えたのは、約2割もあった。

望まない10代の妊娠・中絶や性感染症の流行を防ぐため、木原さんは5年前から中学高校でエイズ予防プロジェクトを始めた。生徒自らが感染する可能性があることや人間関係をゆっく

る。院長は「親の前で説教する。言わないと繰り返すから」と語る。10年ほど前には、相手とその親計4人絶、出産は多くなったとい

「東京都幼・小・中・高・心障性教育研究会の調査では、高校3年生の性経験率は、男子は84年に22%だったのが02年に37・3%、女子は12・2%から45



**Thank you**

